

山行報告



■新竜アルプス縦走(たつの市)

- 日 程：4月16日(日)
- 参加者：La 上田 SLa 香川 木下 木村 関山 田中(美) 安田
Lb 澤田(律) SLb 乙坂 小山 島谷 土井 松浦 矢根

- 行動記録：播磨新宮駅 9:00 発～登山口(9:35 着) 9:45 発～十字路 10:15～祇園岳(10:25 着) 10:40 発～亀池(11:15 着・昼食) 11:30 発～城山(11:55 着) 12:05 発～三基墓(12:10 着) 12:15 発～382.7mピーク(13:00 着) 13:20 発～的場山(13:45 着) 14:05 発～両見坂(14:40 着) 15:00 発～鶏籠山(15:10 着) 15:15 発～龍野城(15:40 着)

◆◆山々は新芽を吹き始めていました

田中(美)

姫新線の姫路駅ホームで集合。8時16分発に乗り播磨新宮駅に到着。市野保の村の中を歩いて登山口へ。水布弥登山口でストレッチをして出発。いつもながら20～30分は脚がなれず、登り始めはしんどいです。

背丈より高いシダを潜りながら祇園岳へ。やっと着き、下界の新宮町や揖保川の美しい遠望を見ながら休息。早くも山ヒルがいたようで、山ヒルと聞いただけで身が縮かむ思いがしました。“私だけかも”。

一度見に来た事がある亀岩を見ながら亀池へ。池の周りは広く水面も穏やかで、“あめんぼ”が浮いています。ここで少し早い昼食(15分間)となり、木の陰で腰を下ろし急いでおにぎりを頬張りました。



元気が出た所でアップダウンも何のその、と繰り返しながら登って行く。時々見せる下界の景色を見ながら最高点458mの亀山へ到着。

周りは木が立ち並び何もなく「亀山(城山)」の標識だけです。

前進している時突然リーダーが道の無い方に逸れられて、そこにはお墓の石碑が3体(3つ形状の異なる基が並ぶ)あり、“シャシャキ”が立てられていました。

結構きつい登りです。長い間隔で7分咲きのミツバツツジが続き横目に見ながら進んでいく。

鉄塔を過ぎ次は電波塔、そこが2番目に高い山の的場山394mです。ここで少し長めの休息。「これから下りは急坂になるから気をつけて」と注意されたので、ストックを使用する事にした。気の抜けない傾斜が最後まで続き、やっと両見坂まで下りて来ることが出来ました。下りた所に両見坂石灯籠の大きい事にビックリ。

最後の鶏籠山へ、龍野古城で赤松氏築城、織田信長に城を明け渡したそうです。

龍野城へ全員無事下山出来、満開の枝垂れ桜が迎えてくれました。龍野城でストレッチ、登山が終わって1日の達成感が湧いてきました。今年になって最高気温の中、リーダーの上田さん、澤田さんありがとうございました。

◆◆新竜アルプス縦走山行に参加して

松浦

天気予報の長期予報では暫く雨だった予報が、週末が近づくとつれ好転し、当日は晴、朝の天気予報では、南の風、五月中旬並みの夏日になるとの事でした。

J R 姫路駅の姫新線ホームに集合。播磨新宮駅に到着後、登山口を目指し歩いていると、城山城周辺史跡案内図の看板があった。「この辺り昔は、越部と呼ばれていた」と教えて頂いた。「春のこの時期、山は笑う」「秋の山は装う」と言われているとか、足元の小さい紫色の花が「地獄の釜の蓋」と呼ばれているなど、色々なお話を聴きながら登山口に近づき、体操後、「藪漕ぎでは無く、シダ漕ぎになります」との、リーダーの言葉通り、始めはシダが沢山茂っていました。

休憩中「この虫、尺取り虫みたいな動きしてる」と言われ覗いていると、「それがヤマヒル！」と教えていただきました。

その後、蛙岩と亀岩の横を通り、亀池でお昼を摂り、城山、的場山、両見坂、鶏籠山と歩いておりますと、時折足元に桜の花弁が落ちているけれど、たまに見かけるソメイヨシノはすっかり見頃を過ぎた感じでした。龍野城まで下りて来ると、枝垂れ桜は丁度満開、とても綺麗に咲いており、その前で体操をしました。

J R 本竜野駅迄歩き、再び姫新線に乗車し、姫路駅ホームで解散となりました。

山道はシダが茂っていたり、石に苔が付いていたたり、石や落ち葉が堆積していたり、急坂だったり色々な場所が在りましたが、一緒に歩いてくださいました皆様と無事に縦走する事が出来ました。



■石金山・イタリ山(山南町)

- 日 程：4月18日(火)
- 参加者：L 佐々木 SL 赤木 内海 狩集 木下 島本 田中(重) 田中(由) 苦瓜 西口 舛賀 村上

- 行動記録：J R 船町口駅(8:40 着)～山南仁王道の駅(9:00 着)9:10 発～至山(9:40 着)9:50 発～田高峠(10:40 着)10:45 発～天狗岩(11:40 着)11:50 発～石金山(12:10 着)12:40 発～子新屋観音分岐(12:55 着)～小新屋観音(13:25 着)13:35 発～小新屋(13:50 着)～也足寺(14:00 着)～山南仁王道の駅(14:50 着)～J R 船町口駅(15:10 着)15:30 発

◆◆石金山・イタリ山山行に参加して

田中(由)

昨夕からの暴風雨は早朝に止み、夜明けとともに晴天となり絶好の登山日和となった。

午前9時過ぎストレッチを済ませ登山開始。

ジグザグの急登に汗を流しながらイタリ山山頂で休息し、石金山へのルートは登った分だけ急下降の繰り返し、ロープ、鎖場、関電の長いスチール階段等、厳しい山道を黙々と山頂



を目指しました。途中、天狗岩辺りは急登が続きリーダーの指示で、三点確保で挑みました。

石金山の頂上は、とても見晴しの良い景色で360度の展望で遠くは明石海峡大橋、淡路島を望む事ができ苦しかった事も忘れる程、爽やかな風も気持ち良く自然を満喫の昼食はとても美味しかったです。

下山は大変だった天狗岩へのピストンルートに戻るより、計画書通りのコースを行

く事になりました……。ここでもロープ、鎖を頼りの下りでしたが意外と短く感じました。

J R 船町口駅までの約1時間半の一般道は長く疲れた脚にはこたえましたが低山ながら変化に富み厳しくも有り楽しい山行でした。

お世話になり、ありがとうございました。



■熊山(507.8m) & キリンビアパーク岡山(見学)

- 日 程：4月23日(日)
- 参加者：La 須増 SLa 藤本 大谷 大野 川上 田中(重) 田中(美) 苦瓜 西口 舛賀 松本 矢根 山本(正一) Lb 砂川(延) SLb 森本 乙坂 佐々木 河合 田中(由) 土井 橋本(健) 平井 待場 村上 山本(正樹)

- 行動記録：J R 姫路駅 8:01 発ー J R 熊山駅(9:01 着)9:13 発～近くの広場(9:15 着・ストレッチ)9:20 発～熊山登山口(9:30 着)～赤松峠・分岐(10:00 着)10:15 発～東屋・展望台(10:30 着)10:35 発～見晴らし台(10:45 着)10:50 発～竜神二つ井戸(11:15 着)11:18 発～熊山神社(11:25 着)11:30 発～熊山遺跡(11:35 着・昼食)12:05 発～弓削下山口・フットライト(13:15 着・ストレッチ)13:40 発～J R 万富駅(14:05 着)14:15 発ーキリンビアパーク(バス 14:22 着)16:15 発ー J R 万富駅(バス 16:23 着)16:34 発ー J R 姫路駅(17:40 着・解散)

◆◆岡山県 熊山～最後にビール工場を目指して～

乙坂



この山への山行は昨年も計画があり、今回初めて参加しました。

計画書のタイトルに「森林浴のメッカ」とあり、この日はお天気も良く心と体もリフレッシュ出来そうだとワクワクしました。

JR姫路駅からはちょうど1時間電車で揺られ、目的の熊山駅に到着。登山口はわかりやすく、この時期はヤマツツジが咲き乱れとても綺麗でした。そして今年は桜の開花時期が遅かったので、山桜の終わりかけと八重桜を見ることが出来ました。花を愛でて森林浴を楽しめ、珍しいピラミッド型の遺跡を見ました。登山客も多く人

気のコースみたいですね。

そして次の目的「キリンビール工場見学」へ。下山時は喉の渇きを我慢し、ビールに備えました。何かの番組で「ビールは喉で飲むのが大人」と、言っていたので実践しよう決めていました。工場案内して下さったお姉さんは“ホラン千秋”似のキュートな美人。思わず見とれてしまいました。

さあ、いよいよ試飲！視線と喉はおじさまに成り切って、喉越しを大切にゴクゴク☆

美味しかった～、本当に美味しかった。1人3杯まで、20分間で飲む。工場限定「柿の種」をおつまみに。アルコールは強くない私は、帰りはほろ酔い気分でも楽しかったです。

「来年も行こう！！」と思いました。



■比良山系・堂満岳(1057m) 女性委員会 琵琶湖の展望とシャクナゲを楽しむ

- 日程：4月30日(日)
- 参加者：La 三木(悦) SLa 澤田(律) 狩集 木村 坂田 田中(美) 田中(由) 苦瓜 廣岡 村上 森下 本田
Lb 藤原 SLb 瀧原 有本 岡本 川上 黒本 小山 高島 矢根 山下(純) 山本(清)

● 行動記録：

- (A班) イン谷口(8:50着)9:00発～ノタノホリ(9:50着)10:00発～堂満東稜線(11:00着)11:10発～山頂(12:10着)12:25発～東稜線・昼食(13:10着)13:40発～ノタノホリ(14:30着)14:40発～イン谷口(15:20着)15:50発
- (B班) 堂満東稜線・昼食(11:00着)11:30発～山頂(12:25着)12:40発～東稜線(13:25着)13:40発

◆◆堂満岳へ

坂田

今日登るのは、琵琶湖西側、比良山系の堂満岳1057mです。最後のトイレ休憩の道の駅を出ると、前方にひと際形のいい堂満岳が見えてきます。気象担当の方からの連絡メールによると、登山指数が、午前はA、午後からはCだとか。やはり、山の上には雲が下りていて、少し不安なお天気です。

廃墟が並ぶ寂れた別荘地を過ぎると、堂満岳への登山道になります。30～40分ほどで大きな池、ノタノホリに到着。そこで小休止。モリアオガエルの産卵する池とのこと。

穏やかな道の両脇に立つ大きな木には、根元から1m位ビニールテープがぐるぐるまかれています。鹿の被害から木を守るためのものらしい。沢沿いの登山道は急登となり、ゴロゴロ石と、所々の水たまりで歩きにくい。沢を離れ急峻な斜面を、つづら折にゆっくりゆっくり登る。休憩が待ち遠しい。ようやく尾根に出て、リュックを下して休憩です。ここで、先にお昼を済ませる班と、頂上に向う班とに分けて行動することになりました。私はリュックを下して、身軽になって頂上を目指すことにしました。最後の登りは急登で、手を使って斜面をよじ登った。地を這うように、沢山のシャクナゲの木が繁っているが、残念ながら、色鮮やかな花にはまだお目にかかれない。ただ上に登って行くに従い、つぼみは膨らんできている。途中、イワウチワが群生していて、いっとき、淡いピンクの可憐な花で私達を慰めてくれる。『もう頂上ですよ！』前に行くリーダーの声。辿り着いた頂上は、昼時でもあり、お弁当を食べている人、縦走してきた人、ツアーの大群でごった返していました。

山頂から見る琵琶湖は、遠くは春霞がかかり、海のようにも見え雄大でした。

下りは激下りで、リュックを置いた場所まで戻り、お弁当をたべ登ってき道をひたすら下りた。何度か息があがりそうになりながらも、何とか登りきれた満足感一杯の山登りでした。足の動きを見ながら上手にリードして下さったリーダーの三木さん、そして私の遅い歩みに付き合って下さった、23名と一緒に登った皆様、ありがとうございました。





■ 笹ヶ峰 (石鎚山系・200名山)

- 山 行 日 : 5月3日(水)～5日(金)
- 参 加 者 : L和田 SL佐々木 大谷 乙坂 河合 福田 待場 村上

● 行動記録 :

- (3日) 日浦登山口 13:35 発～ダイヤモンド水(14:20 着)14:30 発～銅山越(15:50 着)～銅山峰ヒュッテ(16:15 着)
- (4日) 銅山峰ヒュッテ 6:20 発～銅山越(6:50 着)6:55 発～綱繰山(7:55 着)～シシ舞ノ鼻(11:05 着)～笹の登山道(12:05 着・昼食)12:20 発～ちち山分れ(13:00 着)～紅葉谷分岐(13:50 着)～丸山荘(14:55 着)
- (5日) 丸山荘 7:00 発～笹ヶ峰(8:10 着)8:20 発～ちち山分れ(9:30 着)9:35 発～一ノ谷越(10:10 着)～キケン折り返し(10:15 着)～一ノ谷越(10:50 着・昼食・登山道協議)11:55 発～カタクリ群生地(13:30 着)林道終点(14:50 着)～住友フォレスターハウス(15:55 着)

◆◆ 笹ヶ峰 山行を終えて

待場

石鎚連峰の東端で石鎚国定公園の一角にある。石鎚山、瓶が森“伊予の三名山”の1つで石鎚山よりも古い歴史があるとされている笹ヶ峰へ向かいました。

宝殿駅を2台の車で出発しました。山陽道から岡山に入り事故渋滞の為に福石サービスエリアでトイレ休憩に入ったものの本線に出るのに時間がかかり大変でした。

日浦登山口が2時間以上遅れのスタートでした。

城跡のような見事な石垣、住友別子銅山迎賓館、劇場、小学校などの跡地を見ていると当時はどんな家並みが広がっていたのかと思いを馳せました。

煉瓦壁「小足谷接待館」も、一部綺麗に残っていて石垣のひとつひとつに歴史を感じながら、森の中を登って行くと水飲み場“ダイヤモンド水”で咽喉を潤しました。

別子山… 観喜抗～銅山越えからは淡いピンクの可愛い「あけぼのツツジ」小鳥の鳴き声に癒されながら、銅山峰ヒュッテの見事な日陰ツツジ、あけぼのツツジに出迎えられ到着でした。

2日目は銅山峰ヒュッテを早朝に出発、銅山越えから空の雲行きが段々と怪しくなり膝位もある笹の中での上りが続く、一気に上るのはしんどいので昼食を兼ねて休憩をしました。

ついに雨がぽつぽつと降りかけて下りて来られる人を見ているとカッパがかなり濡れていたの、上の方は大分降ったのだなと思いました。私達もカッパを着て、歩きにくい笹の中での上りを黙々と歩きました。ちち山分岐辺りからの登山道は笹で足元が見えないし、笹の上を歩く所はよく滑り歩きにくい道が長く続きました。



丸山荘が見えたときはやれやれの気持ちと山桜がとても綺麗でした。

小屋で嬉しいお風呂に加え夕食は焼き肉で気分はすっかりリフレッシュしました。一口のビールの味がとても美味しく忘れられません。テント組の2人もこの雨と一緒に小屋泊となり食後も楽しいひと時でした。お布団もふかふかで豆炭あんかもあり、幸せな気分で明日のお天気を願いつつ眠りにつきました。女将さんもアルバイトの方もとても感じよくて思い出になる小屋でした。

3日目は丸山の笹原の中に建つ丸山荘から笹ヶ峰を目指して出発しました。1時間程でつくと青空も見え良いお天気です。山頂には不動明王が祀られています。滑らかな曲線を描いた山容が眺められて、名の通り一面、雄大な笹原の高原のようでした。ここからは又、昨日歩いた道を帰りノ谷越え、なすび平では綺麗なカタクリの群生が見事でした。いくつもの谷越は雨で濡れているのと、銅山はどこも岩がポロポロで崩れ易く危険な状態のところが多くありましたが、皆無事に住友の家フォレスターハウスにつくことが出来ました。

リーダー、サブリーダー、長距離の運転と大変お世話になり有難うございました。

◆◆テント泊で行く四国 笹ヶ峰

福田

たまにはテント泊もいいかな？と気軽にテントでの参加を希望しましたが、メンバーは2人。他の方は小屋泊でした。食事のメニューを考え、テントを1度自宅で設営し、バーナーの調子を確認し、機材のチェック。ミスがあっては大変です。

1日目は銅山峰ヒュッテまでで、昭和43年銅山の閉山まで最大で約2万人もの人たちが働き生活していた学校・集落・病院・迎賓館などの跡が点々とあるフォトジェニックな山道。重いザックにも耐えられます。夕方、ヒュッテに到着するとすでにテントが4張り。

ヒカゲツツジの咲く素敵なテント場です。早速テントを設営したら夕食の準備。メニューは寄せ鍋とフォーです。下ごしらえをしてきたのですぐに完成。お鍋は寒くて冷えた身体に何よりのごちそうでした。翌朝のバケットサンドの準備をしたら、2人でシュラフに潜り込んでおしゃべりタイム。とっても楽しく一夜を過ごしました。

2日目。朝食を済ませ、テントを撤収したら出発です。終日歩いた山道は笹がビッシリと生い茂り、霧のような雨も重なって足を取られそうになり歩きにくく、神経を使う分疲労も多かったです。宿泊地 丸山荘に到着した頃には雨が本降りとなり、私たちテント組も小屋泊に変更しました。おかげでお風呂とバーベキューの夕食まで頂きゆっくりと身体を休めることができました。



3日目。晴れ。ただ昨日歩いた笹の道を下山の分岐まで歩くため雨具とスパッツ着用。

ようやく笹で歩きにくい道が終わり、一の谷分岐まで来たが、ここからはかなり道が崩れ、谷筋をロープで越たり、ガレ場の岩をよじ登るようなルートになりました。一か所、岩場をエスケープする際リーダー、サブリーダーの張ってくださったロープにチェストハーネスを使って登りました。安心感が違いますね！一緒に勉強している学習会B班の皆さん。本番で使いましたよ！！ようやく、なすび平までくるとかたくりの花が沢山咲いていました。今回

はヤママップでスマホにルートと地図をインストールしてきましたが荒れた山道で現在地を確認するには役に立ちました。

3日間、予想していたより少々ハードな登山になりましたが、とっても楽しかったです。

リーダーさん、ドライバーさん本当にありがとうございます。またこの続きのルートをつないで石鎚山まで歩いてみたいです。



■高御位山ミニ周回(山桜でお花見)

- 山 行 日 : 5月7日(日)
- 参 加 者 : La 藤本 SLa 瀧原 木下 田中(重) 田中(由) 苦瓜 安田 山本(清)
Lb 赤木 SLb 森本 兼本 狩集 島谷 田中(美) 橋本(万) 村上
森下 矢根

- 行 動 記 録 : 市ノ池公園 9:10 発～鉄塔1 (9:25 着)～経政神社(9:45 着)9:50 発～鉄塔2 (9:55 着)
～高御位山(10:45 着)10:55 発～松の木谷池(11:50 着)12:20 発～鷹ノ巣山(13:40 着)～
百間岩(13:55 着)14:05 発～市ノ池公園(14:45 着)

◆◆「心休まる山歩き」を目指して

藤本

きっかけは加西市の善防公民館で開催された登山安全教室で講師の加藤さんが唱えられていた「花でも見ながら会話ができるくらいのゆっくりしたペースで歩く」だった。

普段山を歩いていると足元に小さな花が咲いていることは知っていたが、よく見ることもなく「きれいだな」と思うだけで通り過ぎることが多かった。かがんでみると小さいがけっこうな種類の花が咲いているのがわかる。高御位山だけでも数えきれないほど咲いている。知らない花を見つけて名前を調べ、他の山で同じ花を見つけると「ああ、ここにも咲いていた」と妙に親しみが湧いてくるものだ。

今回高御位山に咲く花を参加者全員で探す山行を行いました。おかげさんで思っていたよりたくさんの方が咲いていることがわかり、宿題もありました。例えばツツジがたくさん咲いていて、微妙に大きさ、色など違う花がたくさん咲いています。同じツツジだと思っけどさっぱり区別が付きません。ヤマツツジ、モチツツジ、ムラサキヤシオツツジ、ミツバツツジなど名前はいっぱいあるようです。来年も同じコースの山行で今回調べた花を再確認したり、宿題もかたづけたいと思います。またシーズンを変えて同じような山行をもう少し短い距離で計画したいと思いますのでよろしくお願いいたします。(加藤智二さん：好日山荘登山学校校長)



■今回見つけた野草の花の名前：

イシモチソウ、オオジシバリ、コナスビ、タンポポ、ニガナ、ハルジオン、ヒメハギ、マツバウンラン、ムラサキサギゴケ

■木に咲く花：アベリア、ウツギ、コデマリ、ツクバネウツギ、ツツジ、ニセアカシヤ、フジ

■花ではないが、コナラに寄生する虫の卵：ナラメリンゴフシ

《 参加者の一言 》

- (赤木) 前回より短かったが、池からの登りがきつい。
 (兼本) 予想した以上だった。池の周辺にもっと長い間居たかった。
 (狩集) 初めてのルートは楽しい。高御位山の北の池を知らなかった。花探し、初めはよかったが。
 (木下) 前はきつかったが、今回はちょっと短いコース。百間岩から森を抜ける道がよかった。
 (島谷) 知らないところを歩いた。暑いときはもっとショートコースがいい。
 (瀧原) よく馴れた山で花を楽しみながら歩いて新しい発見。知らない道も楽しめた。
 (橋本万) 上下左右に眼をキョロキョロできる余裕があったので楽しく歩けました。
 (森下) 花を意識して歩いたらかわいい花を見られた。途中で空を飛びました。
 (森本) 初めてのコースを歩いた。道が覚えられない。
 (安田) ミニと聞いて楽なコースだと思いザックに水を入れたが重すぎた。でも楽しかった。
 (矢根) 花探しを楽しみました。
 (山本清) 花探しは保育園児みたいで楽しかったが、途中からボリュームのある道に疲れた。

花 地 図

